

昨年5月に地元のつくば市で開業。OFBスーパーウェルター級関東地区のチャンピオンでもある大久保弘記先生を訪ね、話を伺った(聞き手は高城勇揮・歯科広報部長)。

— 診療をされながらボクシングのタイトルを保持されているのは、すごいことですね

小学校時代、中学校時代はいじめられっ子でした。太っていて、不整脈、気管支喘息のため運動ができなくて。中学でテニスならそんなにハードではないだろうとスポーツを始めて、高校でだんだん体力がついてきて、大学でボクシングを始めました。きっかけは、当時、やんちゃな少年たちを集めてプロボクサーに鍛え上げる「ガチンコファイトクラブ」というテレビ番組に触発されたからです。厳しいトレーニングをこなし、プロのライセンスを取得しました。いざ試合に出ようと思った矢先に、バレー部の同期から声がかかりました。「部員が足りないから来ないか」と。当初はボクシングの試合とバレーボールの両立を

考えていたのですが、バレーボールを始めたらそっちの方が面白くなって、バレーにのめり込んでしまいました。オールデンタル(全日本歯科学学生総合体育大会)にも臨みましたが、予選敗退ですけれども。ですから、プロボクシングはライセンスをとっただけなんです。卒業後もバレーボールを続けていたのですが、6人集めるのがなかなか困難で、続かなくなりました。

— それで再びボクシングに

そうです。32歳の時に、「ザ・おやじファイト」(OFB)という大会に出ました。少し名前が格好悪いですが、今、僕はR30(30歳以上)の関東地区のチャンピオンです。昨年の大会は、5月に開業して、すぐ7月に後楽園ホールでの試合が決まってしまったので、準備が全くできなくて、その時だけ負けてしまいました。通算成績は4戦3勝1敗。ただ、その1敗はR30の中部地区のチャンピオンと日本一を取り合う統

一チャンピオン戦だったので、まだ今でも、関東地区のチャンピオンベルトは持っています。おやじファイトにはプロのライセンスを持っていた選手も出場でき、競技人口は全国で700人程。年々競技人口は増加してきています。最近では、「なでしこファイト」という女性マッチも行われています。

— スーパーウェルター級というのは?

67~70kgの階級です。僕は今71kgなので、試合に出る時は2kgくらい減量します。この階級は一撃が強烈なので、僕はなるべくパンチを受けないようにかわして、チャンスを待って打つというボクシングスタイルを取っています。

— 待合室にチャンピオンベルトを飾られていますね。ボクシングを通して患者さんに何を伝えたいですか?

歯医者さんって、一見、順風満帆だと思われるんですけども、そうではなくて、いじめられっ子

だった僕も、努力してこうなったんだよと、ちびっ子たちや患者さん方に知ってもらえたらいいなと思っています。また、つくばにはボクシングジムが無いので、将来、ジムを作って子どもたちに教えられたらいいですね。それと、歯科医院って、痛い、怖いという嫌なイメージがあると思うんですが、少しでもくつろげる雰囲気を出すために、チャンピオンベルトの隣にある50インチのテレビにはジブリシリーズや季節の動画を流しています。春は桜、夏は海、冬は雪原とか。うちのスタッフはビデオを編集するのが上手なので、すべて彼女たちに任せています。

— スタッフ教育にも力を入れておられるんですね

— スタッフ教育にも力を入れておられるんですね

スタッフは矯正担当医が1人、歯科衛生士が2人、アシスタントが2人です。スタッフには歯科医院未経験者もいますが、患者さんへの挨拶や、心遣い、気づかいがきちんとできているの



2007年日本大学松戸歯学部卒業。日大松戸歯学部附属病院口腔インプラント科、医療法人での勤務を経て2019年開業。大学時代にボクシングのプロライセンスを取得。

